

《ロンドンからのたより(両親宛)》 ・1975
～グロスタープレイス綴れ模様:その4～



1975年1月5日

お父さま&お母さまへ

新年あけましておめでとう！

1月1日のたより、いただきました。除夜の鐘を聴いて、お屠蘇で新年を祝う、いつもの変わらぬ日本の元旦の朝明けというのは、なんとも懐かしく、いいものです。なんでもない時の流れを区切って特別な日として定め、礼節を尽くして待ちわび、その時になれば新鮮な気持ちで祝うということは、生活にリズムを付けるし、魂が改まるというのかしら、霊的な意味合いを持たせるのはいいことに思う。とにかく家族一同、元氣でお正月を祝うことができて、本当になによりです。お母さまも暮れに掛けて少しお休みが取れた由、骨休みが出来たかしら。お父さまもお仕事の方休んで、からだの養生ができたのならいいがと思ってましたが。そんなにじっとしている性分ではないから、おそらく錦鯉の世話やらで何かと庭でワサワサ忙しく動き回っているのではないかと、その様子が眼に浮かぶようです。益々お元氣で張り切ってもらわねばなりません。頼りにしておりますので、どうぞよろしく！

こちらでは《欧日協会》の若い人々が集い、元日の祝賀会を催しまして、私もお節料理をこしらえて持ってゆきましたよ。お琴の調べが奏でられる、おめでたい雰囲気の中で、なかなか面白い顔ぶれが集い、結構でした。でもやはり、心は郷里に向かうわね。日本にいれば年賀状が届いている頃だとか、あれこれ期待してしまう。「去る者は日々に疎し」というけれど、本当にこんなにも遠くに来てしまっていると、昔の友だちに覚えてもらっているだけでも貴重なことなのだし

う気さえする。でも、誰しもなかなか思っても外国くんだり迄たよりをする気になるのはそう容易いことじゃないみたい。本当に忘れられてゆく。私の方も忘れてゆく。それで年々たよりをする人の数が減っていつているのも事実なのです。失った分だけ、この地で知り合う人の数が増えていつているとも言えるけど・・・。「袖摺りあうも多生の縁」とかで、やはりここ異国において出会う日本人に同胞として近づきを得るのは悪くないのね。でも仲良くはしていても、それぞれがそれぞれでんでになにやら‘探しもの’をしているみたいで、此地では所詮‘根無し草’でしかないわけ。日本に戻ればどうなるやらといった、まだまだ‘目鼻立ちが付かない’それぞれだから、言うなれば将来を棚上げしてるってわけで・・・。それも気儘でいいけどね。そんな雰囲気だから、実際‘寄り合い所帯’というか、どうしても雑多な性格の交際になってしまう。もう一つしっかりと興味・関心を共にする人とかを探す段になると、もうかなり困難といえます。その一方いろんな人間[日本人！]を知る機会にはなるので、よく観察してはいますけれど・・・。良くも悪くも我が同胞ですし、戻ってゆくところはそこなのですから、疎遠にならぬようにと心掛けているのです。

仕事やら勉強に戻れば私の日常は英語英語ばかりで、すごい緊張の中で暮らしているのだから、時々パッと息抜きが必要だと思う。だからといって、日本人との交友に慰めを見出してというわけでもない。いうなれば‘合いの子’的な感覚なのかな。自分の軸足がどっち付かずというか、立ち位置が宙ぶらりんなのです。だから、もう一つ全面的にはスカッと陽気にはなれない。それは、たとえ今もしかして‘息抜き’に日本に帰省したとしても同じではないかなと思う。やはり内心重く抱えているものがあるからでしょう。だか

ら、今ここでやっぱり苦しくとも苦しんで頑張り抜かなければ本当の心の救いというか、安心は得るべくもないのだろうと思える。一体何の因果でこうなっているのやら、とふと我が身を訝しく思ったりするわけなのです。さてさて、仕事に戻って頑張らなきゃ。。。

いずれ又。 千鶴子より



1975年1月8日

お父さま&お母さまへ

国際電話を掛け終わって、ペンを執っております。実は、先月の病院から貰う給料が、なぜかひじょうに予想より多めで、つい嬉しくなっちゃって、思い切って散財しちゃいましたわけ。7分間の通話で£8ポンド65ペニーでしたよ。お蔭で気分がスカッとしました。

手紙のやり取りだけじゃ、もう一つ心もとないのです。クリスマスそしてお正月を過ぎて、いざ勉強に仕事に精出すつもりでいたのですが。その気持ちの不安定なこと著しく、またまた不本意ながらも「日本恋し病」がぶり返したみたいになっちゃって。。《欧日協会》で友だちになった操さんにも、異国暮らしも3年目ぐらいには一度帰郷するようにした方がいいとやら言われたのね。そんなこんなのお喋りしてるうち、本当に泣けてきたわけ。(彼女は3月には日本へ戻る予定なものですから。。。)

研究・勉強に一応の格好が付くのを待つとしたならば、あと3年も4年も、そんなにも時間が掛かるとやら耳にすれば、そうか、帰りたくとも帰れないのか、そんなにも。。などと思ってしまう。いくらこの道はわが道と力んでみても、所詮か弱き女の独り身で、たまらない思いがついたわけなのです。

グルーッと周りを見渡して、【タヴィ】の他の訓練生の様子を見るならば、それぞれ長期戦の覚悟があるからなのか落ち着いているし、外国から来た人たち(特にアメリカ・カナダ系)は、結局この地で伴侶を得て、この人になってるという具合で。。私のようにいつかは帰国するつもりで腰掛け的な状態で、言葉は勿論、風俗習慣の違いもあり、受け容れる学問そのものにもいろんな不安や迷いがあるなどというのは、まあ言えば‘下手にエネルギーを消耗している’というのか、危うくも得てして‘積み木崩し’しちゃうわけです。しかし、なんだかんだと言っても、畢竟、そうした心の動揺を体験することも重要な学びの体験なのですし、それにどう対処してゆくか、自分で解決の道を探してゆくことなのだろうと覚悟しておりますところです。

人間ってのは、やはり一人では生きてゆかれないものやし。こんなところで外国人であるという多大なる困難は困難として、ただ憐れまれるのじゃなく、逆手に取ったような形で、自分の個人的特徴やら日本人のそうである所以のようなものを表現してゆけたら、そして認めさせてゆけたらと思っているのです。事実、その線で行っているものの、その緊張感やら孤独感とはたえようもなく募る折があり、いろいろな知己を得て、そうした話が出来る人はいなくはないのだけど。結局は、あまりにも特殊な事情にあるので、一人で心を鎮めるように努めるしかないのです。なんと云っても、親からの心遣いやら声援やらはそんな時には貴重な支えとなります。実際の話、今日の国際電話を掛けながら、私はかなり乱れちゃって、恥ずかしながらボロボロの涙でしたけどもね。マコさんとも話せてラッキーでした。さすが同業者というか、＜心理治療って面白いもんやろ。。＞とか、＜切りのいいところで帰っておいで。。＞とか。そう言われるとそうも言えるなあとか、

伝え合うものが感じられて、国際電話のチャージ料金も内心ヒヤヒヤものだけど、なかなかお金には換えられない嬉しさでした。それにしても、お父さま、なんと若々しい元気な声出すんやろ！後で可笑しくて笑っちゃいました。何かしら物事がうまくいっているというのか、実年の強さ、落ち着きが溢れていて、まことに結構でした。私も今後、気持ち無理に堪えず、本当に必要な折は電話でお話するつもりであります。

それから、英国からの錦鯉愛好家らご一行を歓迎しての舞鶴での懇親会の件だけど、あらまあって本当に呆れました。どえらい話！もう気恥ずかしくなるほど豪華版になってきてるじゃありませんか！？歓迎式典での音楽隊の演奏についてはもう吹き出しちゃいました。そんな大袈裟なこと聞いたら、ローランドは驚いて尻込みしちゃって、大変なんじゃないかと思うよ。それに、お越しになれるご一行の方々一人ひとりに Dr.川口先生がなんと1匹ずつ錦鯉をプレゼントする心算なのとか、もう驚嘆しました。親しくなっていればともかく、ただ舞鶴に来た、見た、貰った(鯉を)ってだけの人やったら、貰う方もおかしい気分なのじゃないかと思うけど。私は、そこらへん、どう説明すればいいのやら、言葉が思いつかないわけです。ただやっぱり Dr.川口先生としては、友好親善のためと一生懸命ご尽力くださっておいでなのは明らかなのだけど。一方、此地の人びとはお国のためにとか、《英国錦鯉協会》のためにとかいった配慮やら・気遣いは概してひじょうに乏しいですし、飽くまでも物事全般に、対人関係をも、個人〔自分〕本位で考えるわけなのね。

ローランド(Mr. シール)の場合は、たまたまいかにも快活で人好きのする感じの人だから、

Dr.川口先生もいまだもって悪い思い一つするじゃなく、お二人の関係が続いているのはまことに結構なのです。そうした親しさを他の英国人にもお裾分けしたいってのは道理ではありますけれど、こっちの【英国錦鯉協会】の会員同士といっても、お互い個人的に知遇を得ているとも限らないわけだし、敢えて申せば気心が知れない間柄でしょうから、Dr.川口先生のご厚意を伺ったら、おそらくローランドはびっくりして複雑な思いをするかなとも思うけど。私は差し出がましいことは一切言わないつもりです。歓待する日本側は日本側で存分なこととしてやりたいだろうし、やったらいいのだと私としては思ってます。

しかしながら、はっきりしていることは、私の知る限り、こちらの会員は大概がごく普通の庶民というか、決して経済的に裕福とは言えないということ。そうした点で、お返しが到底考えられぬほどのプレゼントを日本側からいただくことはどういうものかしらと思ったり…。実際がちあけて言えば、ローランドは Dr.川口先生が渡英なさる機会があれば、ぜひ自宅に来てもらうつもりだって頻りに言うけど、本当のところ、お客さま用の寝室ってない有り様なわけ。私のときは、上の男の子の個室で彼のベッドに私が寝て、下の子が両親の寝室に簡易ベッドを備えて寝たというのが本当なの。それでもそうすることに慣れているのか、皆さん平気でいたけど、私は内心あまり居心地のいい思いじゃなかったのです。実際、ベッドが子ども用で硬かったもので…。それに、ローランドが、先日講演旅行にお越しの鯉業者の神畑氏に、日程の都合が付きさえすれば、ぜひ私の宅にいらして欲しかったのに残念だなんて言うもので(本人に直接・・・)、私、傍らで聞いてて、あら、あんなこと言っているって、ちょっと引っ掛かったの。お愛想にしても、ちょっと無理してる

みたいな印象がして・・・それでね、私の言わんとするところは、英国人といっても誰しもが皆お大尽じゃ全然ないし、ごく普通の慎ましい暮らしをしている人たちだってことです。それでも、この機に日英の‘鯉キチ’たちのご縁をそれなりに大事にはしたいと双方とも思っていることでしょうし、まあ総てうまくいくことをひたすら祈っております。

かしこ 千鶴子より



1975年1月24日

お父さま&お母さまへ

そちらは雪のようですね。こちらは雨の多い、時折は温かい、時折は寒いという具合で



すが、公園の芝生には一面クロッカスやらスノードロップなど春の到来を告げる花たちがそろそろ咲き始めています。

昨晚、ローランドに電話を掛けました。例の件では Dr.川口先生宛にもう2週間前かいたよりをしたことで、情報はそちらに届いていると思います。ツアー参加者は19名とのこと。ローランドの奥さんのポーリンは行こうかどうかと今思案中なんだとか。皆さん、たいそう興奮しているとのこと。総てがうまく行くことを祈っているところです。それがどうやら全員が舞鶴くんだり迄訪れるとのことですよ！以前には、まあ大体ごく内輪の、3名ほどをお連れするぐらいの心算でローランドはいたのですから、話がえらく大きくなったということだわね。カナダからも参加者が一人あるって言うし、皆さん互いにまったくの他人同士の集まりになることでしょうが。まあどうなることやら・・・。

私の方、ここずうっとセミナーでレポート発表をたて続けに引き受けて、もの凄く多忙で、

気狂いじみたスケジュールで頑張っていますけど。それだけに勉強の方は大きく進歩したような感じが致しますし。いい調子だと思ってます。つい先日、送金をいただきましたので、セール期間中に、春物の洋服類などをかなり買い求めました。もうあと当分は衣類で心配しなくてもいいし、内心ホッとしています。本当にお蔭さまです。

お母さまの方、伊勢参りは楽しく行って来はりましたか？私も、真珠もののイヤリングなど、いいのがあれば欲しいなとは思いますが。それはいつでもいいことですし・・・。

では、いずれ又。 千鶴子より



1975年2月10日

お父さま&お母さまへ

お手紙ありがとう。『舞鶴整肢学園』での[勤続15年表彰]の件、お母さまの長年の仕事の成果が認められた模様で、私も大層に自慢に思われます。長い苦闘の日々でしたね。終わってしまった後はなんとでも言えるけど・・・。私などのように、今その過程にあり、かつ序の口のところでうろついている者にはしみじみと何かを成し遂げることの忍耐を思っ、やっぱりお母さまは‘頑張り屋さん’ だなあってつくづく思うのです。お届けいただいた表彰式でのお母さまのお写真ですが、お召し物が素晴らしかったじゃありませんか！お澄まししているの、自分の母親って感じがあまりしなかったけど・・・。ほんとに、まあまあ、大変に結構でした！

さて、ポーリンは一緒に行くと決心を固めたとかで、本当に興奮気味で喜んでいます。たとえ借金したって、この機会を逃したくないと腹を括ったのは上出来でした！ なんて言っちゃって、

愛妻家のローランドのことだから、嬉しいがってもいるし、心強くもあるでしょうし。お二人にとってほんとに良かったです、まったく！

舞鶴での歓迎式典のスケジュールなど、かなり格好が付いていってるようですね。日本人はなんと言っても、厳粛な儀式だったことからじゃないと何事も始まらないし、英国人ってのは、ワインを片手にワイワイガヤガヤと喋ることでものごと(食べるにしろ、相談ごとにしろ)が始まるわけで…。いろんなお国柄の違いはさておき、何やらひどく面白いことになりそうですね。

私のほうは、滅法やたら多忙を極めています、家恋しいって気分は、ここ最近不思議になくなっています。そろそろ大人にならなきゃね…ってことかも知れませんが。いい傾向と内心喜んでおります。それでは Dr.川口先生そして舞鶴の‘鯉キチ’の皆さま方にもどうぞよろしく。

かしこ 千鶴子より



1975年2月16日

お父さま&お母さまへ

2月も半ばを過ぎ、公園のあちらこちら一面に黄水仙の花が咲き誇り、此地では今



頃が季節的には一番私は好きです。樹木はまだ緑の葉をつけてはおりませんけれど。今年は

日本は全国的に雪だそうです。道路も雪解けてビジョビジョになっているのかなど、あれこれ想像しております。

私の方は落ち着いています。近頃は尚いっそう多忙を極めておりますが、なんと云っても、ここの暮らしも2年半も過ぎれば、生活

もなんとか格好の付くものですね。自分でも不思議な気持ちでいます。それもこれも、なんと云ったって、両親のご助力の賜物でありますから、私は心底感謝しています。

それから、姫路の鯉業者の神畑氏から新年のご挨拶と一緒に錦鯉のカレンダー2つも頂戴したのです。3千円の郵送料にはもうびっくり驚いちゃいました。でも、私が部屋の壁に掛けて愉しむには、ちょっと鯉の写真の図柄が今一私の好みじゃなかったの。それで、こちらのアレン会長ご夫妻にお届けしたわけなの。つい先日、ご丁寧な礼状が届きました。そして、くれぐれも舞鶴のご両親によろしくとの言伝でした。どんなにこの偶然の出会いを、そして親交を喜んでいるか、言葉に云えぬ程だ…おっしゃるのよ。それでお父さまの事故に触れて、奇跡的な回復を見せているとのこと、どんなに安堵したか知れないとやら、実に細やかな行き届いた心配りに溢れた文面でした。相変わらずほんとにいい方たちですね。それから、春のジャパン・ツアーには行かない代わりに、庭の池の拡張を計画していて、それにたぶん没頭するだろうなどとおっしゃっていました。Dr.川口先生からのプレゼントの錦鯉も、きっと喜ばれるに違いないと私は思うわよ。ローランドが万事怠りなく面倒みてくれることでしょうしね。では、どうぞお元気で。

千鶴子より



1975年2月19日

お父さま&お母さまへ

近頃、お蔭さまで私の方は相変わらず多忙にしております。昨日、送金額¥120ポンド受け取りました。有難うございました。それからマコが銀行を通して送ってくれた¥54ポンドも

無事に手許に届いています。なにか最近は随分と懐具合が温かくなって喜んでいるのですが。必要な折は必要だけど、ある程度生活の必需品など揃えてしまえば、後は大してお金は要らないものです。けれど、私もこの頃は大きくなろうとして頑張っていて、いろんな経験を積極的に買って出るといふ心境になっているわけなもので、やはりそこは金のなせる力にお世話にならんなんことでもありまして…。家の方からの十分な援助があるということは、なんと云っても、有難いです。先日送られてきた録音テープの中での家族団欒の会話からちらっと聴きかじったのですが、お父さまの会社経営がひじょうなる勢いで伸びているとのこと。私は私のために出費する額が大変なのだろうなああと内心ビクビク申し訳なく思っていたのでしたので、親からくそれぐらいのこと何もビクともせんから案じるな>と言われる、その言葉をようやく信じられる気持ちになりまして、やっぱり内心ホッとしているのです。

私の方の給料も初めに比べれば、随分と上がっていますし、そのうち分析料のことですが、4月から値上がりで、1回6ポンドになります。それが現在の相場額です。この値上がりは私の経済状況からしてもあまり無理とは思えませんので、話し合いの結果、了承することにしたのです。ですが、送金は120ポンドでいいのです。それ以上は必要ありません。毎月のいろんな出費としては、充分お給料でやってゆけると思いますが、心配しなくてもいいのです。下宿代も値上がりで週7ポンドになりました。何もかもが値上がりムードです。自分一人のことですし、お蔭さまでなんら不自由な思いをしてません。

それから、つい最近、英語のレッスンを受ける決心して【ブリテッシュ・カウンシル】の「学生センター」に通い始めたの。英語以外の課目の

いわゆる専門分野の勉強をしている外人留学生のためのコースがあって、内容もいいし、週1時間だけど、とてもためになるのです。日本人も他に何人か居ましたが、普通の英語学校の顔触れよりもずうっといいみたい。私も手を挙げて発表できる心臓になれました。そのうちグループであちこちイギリス国内を旅行する計画もあるのです。ぜひ参加して、いろんな人たちと交わってみたいと思ってます。私はこれ迄、自分の専門の勉強ばかりで、【タヴィストック】だけの生活でしたが、今後は活動領域を拡げてゆくつもりです。私も2年半ここで過ごして、やっと暮らしをまともに楽しむ余裕を持とうとしているのです。

それから、つい先日も親しくなった《欧日協会》で図書係している操さんという女性を私の下宿に招いたの。酢豚とひじきのお料理でおもてなしました。すごく楽しかったの。時折日本語で屈託のない、バカ話もいいなあと思う。その操さん、3月の末、日本へ戻ります。いつか舞鶴を訪れてみたいと言ってらしたわよ。そんなことが実際に起こるかも知れないなんて、人間の繋がりの面白さをしみじみと考えてしまいます。では、いずれ又。かしこ　千鶴子より



1975年2月27日

お父さま&お母さまへ

久し振りのおたより、懐かしく拝見いたしました。雪の降っている日本なのですね。遠い遥かな国の出来事のように。こちらは温かく、陽射しもやや明るくなりました。風邪は引いておりません。この頃、ちょっと疲労感を覚えることはあっても、風邪でぐずぐずすることがないのが助かります。体が思う通りに動かないってのは厭なものですし。何かとあれこれ約束事に縛られている身の上では病気などになっている余裕

がないのですが、折々、家（日本）に帰っていつかボォーッとして過ごすことを夢のように憧れる心境になったりします。

現在、【タヴィ】の近くで下宿を探そうと真剣に思い始めています。教育分析を受けに毎朝通うところが【タヴィ】の近くでもありますし。そろそろ腰を落ち着ける自分の‘城’が本格的に欲しいのです。今のところ下宿代が7ポンドなのですが。次のところ、10ポンド迄のところに絞って、自分一人の孤独と静けさを確保できることを希望しております。私の身近でもボーイフレンドと同棲生活している人がかなりいますけど。この経済難（住居難）を思えば、それが得策だなあと頷けなくもないのです。一人専有でのフラット（下宿）はどうてい無理だとして、誰かと共同ということに落ち着くけど、その誰かが問題なのであり、私のように神経の疲れの著しい職業を持つ者は特に、どうしても住居が休息をもたらしてくれることを必須条件とします。食べ物・衣類はもう二の次、どうでも良い、自分だけの空間が欲しいってのがひじょうなる願望です。その切実さは、日本に居ては考えられない深刻なものなのです。ほんとと疲れます、まったく！少しでも生活をより安定した落ち着ける状態にするために頑張りたいと思っています。

昨日でしたか、ロンドンの地下鉄で事故がありまして、15名ほどの死者が出たというニュースです。日頃ふと予想するだけでも恐ろしい思いがしていたところ、実際に惨事が生じたとなれば、もう地下鉄を利用するのも御免だと思っても、一日として利用せずにはいられないほど人々の生活はめまぐるしく動いているわけで、ただもう我が身の安全と無事を祈っているような具合です。免れる事故もあり、不注意の事故

もあるわけで、なるべく精神的にも健康な生活をすることによって出来るだけの災難を避けたいものです。

私の方の仕事のほうも、かなり日増しに収穫をあげていると思います。しかしながら、日本で多少の経験があったからか、サイコセラピストとして一人前になんとか働けるもののような錯覚でおりましたけど。解かってないことが山ほどあるということが最近ようやく解かって来たような具合で、まったく前途多難なのであります。ともかくにもセント・ジョージ病院では同僚との関係もよく行っておりますし、指導をいただく直属の上司の Mr. ジョン・ブレンナーともやっとこさこの頃では和気藹々の関係になって来たので、喜んでいるところです。【タヴィ】でのセミナーの方は、かじり付くような必死な思いはなくなって、余裕のある態度で利用していつているというような具合なのです。一気にそうごっそりと取り入れられるわけでもなし、時間を掛けねばならないこと、その気の遠くなるほどの時間を思っては焦燥感を抱くこともあったけど、近頃では、自分なりの歩みに徹してゆかなくちゃって、腹が据わってきたところなのです。

一つ可笑しい話があつてね。つい最近だけど、《欧日協会》が主催している造花の教室にちょっと気紛れに訪ねてみたら、あとで私の去った後、残った奥さんたちが私のこと噂して、＜あの方、とても落ち着いていらっしゃるわね＞って、言ってたんですって！それでその話を後で聞いて、もうお赤飯を炊こうかしらと、一人で大笑い！いつも子どもっぽく見られているって気持ちがあったのに・・・いやに大人風に見られたもので、ヘエーッって内心ひどく驚いちゃって。そりゃもう28歳だものねえとは思ってもね。他の奥さま方なんて、後から聞けば、皆どなたも私より年上なんですって。確かに私、この頃では押し出し

がいいというか、堂々としてきているみたいよ。落ち着いた雰囲気ってのは商売柄やはり必要なのですし。そう思われることは決して悪くないわけです。そう云えば、この頃、いろんな場所で、いろんな人と会うのが増えてきたけど。以前と比べて自分も随分と成長したもんだと、社交慣れというか、その落ち着きぶりを大いに喜んでいるわけです。

それから、病院のお給料は、月々上がって
いっているのですよ。おかしいぐらいです。でもいいことよね。私も働いているという自信を持てるしね。お母さまもぜひ体に気を付けて。誰かに必要とされている時が‘人生の花’なのですし、そう思って励んでくださるように。だけどその後、腰の調子はどうですか？お父さまはテレビよりもレコードがいいのは視力のせいなのですか？ちょっと気になったのよ。

では、いずれ又。 千鶴子より



1975年3月7日

お父さま&お母さまへ

遥々日本からの小包みが昨日そして今日と立て続けに2回も届いて、驚いているところです。たくさんの缶詰類、当分の間楽しめると喜んでおります。本当にありがとう！海苔の缶は嬉しかったです。それに日本茶もそろそろ切れかけていましたし。それに調味料はなければいけません。済ましてしまうものですけど。あればやはり調法する品物で、味を楽しめるからやはり嬉しいです。衣類ものは、此地にどうにか慣れ、どこで何を買えるかが解かってきた現在ではわざわざお送りいただく必要はないとは言え、送ってもらえばそれはそれで有難いし、親を身近に感じられ、しみじみ世話を受けている身を有難いと思うわけ

です。それから「日本」の本も、どうも有難う。活字に飢えているわけだから、送ってもらって本当に良かったです。愉しんで読んでおります。

錦鯉の絵の染めてある手拭いも良かったわね。それから、今回頂戴したカレンダーの中の鯉たちは、さすが品評会で全国総一位の優勝したものだったから、なかなか秀逸かつ優美でした。眺めては喜んでます。でも錦鯉って随分とたくさん品種があって、覚え切れないなって思ったほどで、これからしっかり勉強しなきゃいけないね。それから、姫路の鯉業者の神畑氏の会社から一人今春に特派員として渡英してくる人がいるって話、聞いてますか？そのうち連絡があるかと思うのですが…。これも何かのご縁ですし、お仕事の上で手伝うことがあれば差し上げるつもりでいます。それぐらいの余裕[暇]をつくって、勉強やら仕事もしなきゃね。

多忙で気狂いじみた日々もありますけれども、でも時折ちょっとした暇に日本映画を観る機会があったりするのですよ。たまたま黒澤監督・三船敏郎主演の【椿三十郎】やら、時代劇が上映されてたの。それが館内はまるっきり英国人ばかりなのに、もう沸いて沸いて大変でしたの。笑い転がっている彼らの中に混じって、私も結構面白かったですよ。錦鯉といい黒澤映画といい、異国にいても日本がこんなにも‘受けてる’なんて、断然誇らしい気分です。ちょっと以前のように身を竦めて小さくなって生きているわけでは全然ありませんし、それだけでも安堵です。そうした時代の趨勢というのもあるでしょうが、私はここロンドンの地によりやく根付いてゆける感覚を抱きつつあります。セラピイの患者がこちらの子どもたちだということもあるけど、私がいつまでも‘異邦人’であるわけにもゆかないのです。どうやら‘日本恋し病’もどこか吹き飛んでしまっ

たみたい。そりゃ、家族の者には会いたいし、初孫の潤ちゃんの成長も見てみたい気持ちがしますけど・・・精神的な糧を得るために、私はここに必要なだけの期限は居る決心でいるのです。自分にまだまだ満足できませんので・・・相当の月日が掛かることは当然であるのですし、自分が一体何を求めているか、見失わずにいる以上、私は大丈夫です。親がいつか、連れ戻しに来てくれるのを待っているというのじゃ決してないので、どうか安心していてくださるよう。

学べることがある以上、私は幸せでいられると思ってます。覚えているかしら？京都大学の修士課程を終えて、【京都市若杉学園】【母子通園部】にプレイ・セラピストとして在職していた折に、どういう巡り合わせの偶然なのか、「サイコセラピー」についての話をぜひにと講義を依頼されて、園長をはじめ施設の職員全員を前にやったことがあったでしょ。今振り返れば、若輩者がいっぱしの専門家面して、ほんと恥ずかしい限りだったのね。で、不安全感というか、このままここで収まるわけにはゆかないという焦燥感に突き動かされたというか。それで、あそこを一年も満たさずにさっさと退職して、こっちへ来てしまったわけだけど・・・お別れの際にスタッフの皆さんやら発達障害児のお母さん方からお餞別をいっぱいいただいて、頑張っただけと祝福されて・・・その折の心苦しい思いが重く押し掛かる。そんなことを思うたびに、いつか将来、人前で自信の持てるいい話し手になれたらいいな、と本当にそう思う(勿論、日本でね)。それで、満足のゆく仕事をしてみたいなあという希望をいつも育くんでいるのです。ああした障害児の自立支援に携わる仕事をしている人たちのご苦勞を分かってやりたいのです。分かるための言葉を捜しているわけですから。そのためにも今生きて経験していることの貴さを大切にしたいのです。

【タヴィ】の私のコースにもいろんな人が居ます。私は、それぞれが暗中模索しながら、どこ迄も自分の興味を見つけ出し、探究してゆこうとする姿勢には驚かされます。誰がどうこうしろと言うわけでもないのに・・・内から湧き出るパッション〔熱意〕なるものを貴ぶ人間はやはりすぐれていると感心するのです。私も、そうした内なる生命力に満たされ、かつそれを絶やさずに生きんとすることの難しさをしみじみと思い、そう出来れば出来たで、どんなに嬉しいことなのか、分かっ

てき始めたと云えます。

両親にはいつも理解してもらっていることを有難く、感謝しています。自分を尊重し、守り育ててゆくことの大切さをしみじみと思ってます。家族揃って皆健康で、和を他人へと拡げてゆけるように。そんなことをいつも考え、祈っているところなのです。

かしこ 千鶴子より



1975年3月16日

お父さま&お母さまへ

おたよりを拝見しました。舞鶴の‘鯉キチ’の皆さん方がどんなにか英国からのご一行の来日を待ちわびておいでか、その期待に胸弾ませておいでの様子が手にとるように分かるおたよりでした。これをご縁にして、双方にどのようなことが拡がってゆくことか、楽しみです。お父さまもお母さまも、なるべく緊張しないで、リラックスして！どうぞごく普通の人間たちなのだから、相手だってね！通訳を通して、ちょっと話し掛けるぐらいの心臓でいてください。まあまあ、何とも晴れやかなことです！

我が家での接待はどうしたものかとの問い合わせの件ですが。英国からのご一行が

舞鶴であちこち個人宅のお庭を拝見して回るとの話だから、先の本船先生宅でのことも頭に入れて、皆さんのお腹の具合を計算すべきでしょうけど。どうなのかしら？そりゃビールならグラスかジョッキがいいでしょ。たぶんビール瓶の「生」ビールってのが美味しいのじゃなかったかしら？コカコーラは子どもの飲み物で、大人はこっちでは殆ど飲まないよ。ほんの少しオレンジジュースと一緒に用意しとくのも賢明かも知れないけどね。こっちではいわゆる「ワイン＆チーズ」パーティってのがよくあるの。チーズの各種がお皿に並べてあるだけ。それにクラッカーみたいな添え物もあるけど…。私は、いつも（チーズ好きじゃないから）あまり楽しまないです。おつまみものなんかも、各種オードブルがあればうんと楽しいと思うよ。日本のオカキとかね。そんなのでも結構、喜ぶのよ、こちらの人。たかだか我が家の庭で1、2時間ほどくつろいでいただければなのですから、大袈裟なことする必要ないよ。ただ、トレーやら大皿におつまみを盛って、訪れた人の間を、「プリーズ（どうぞ）！」って言って差し出してあげる役の人が必要だね、きっと。洋間のテーブルの上に据え置いただけじゃあ、皆さん手を出しかねて、その分おそらく食べてくださる量が少ないので、あとでお母さまががっかりするでしょうから…。大抵パーティの席では〔高級ならば〕そういう接待役の人が必ずいるわけで。気軽なパーティなら、それぞれ客人がてんで皿を回したりするのだけど。どうせ皆さん方、池を囲んで散ることになるから、わざわざ家の中へ、飲み物やらおつまみものを得るのに戻っては来はらへんでしょ。だから、そのことは心得て、「プリーズ（どうぞ）！」ってお皿を持って歩いてさしあげたら、おそらく喜ばれるわよ。ちょっとした園遊会気分だね！

それから、もう一つお問い合わせのあった真珠の件なのですが。Mrs.アレン夫人やらポー

リン（Mrs.シール夫人）に差し上げる必要は全然無いと思うけどなあ。あげたいの？貰って嬉しくない人はいないけど。Mrs.ヒルダ・アレンは今回はお越しじゃないけど、でもいつもお母さまとはペンフレンドしてる間柄だものね。お母さまとしては、なにか心ばかりのものをこの際に差し上げたいと思ったのね。勿論、お母さまの気の済むようにしたらいいのだよ。なんと云っても真珠は憧れよ、特に西洋の女性にとっては…。そうだ、正直言えば、私も真珠のネックレスが欲しいのでした！それはいつかね。ともかく彼女らお二人とも高級趣味じゃないし、ポーリンはイヤリングしたの見たことないけど、きっと小粒の真珠なら似合うと思うの。それから、アレン夫人は大柄の人だから、七宝焼きのちょっと大きめのイヤリング、もし手に入るようでしたら、その方が小粒の真珠よりいいと思うの。安物でいいですよ。色は青がいいです。青の服をよく着ておいでだから。アレンご夫妻とシール家とは緊密に繋がっているのですから、託けるなら、そうしたら？

舞鶴の‘鯉キチ’の皆さん方の張り切っている様子が眼に浮かびます。どうぞ落ち着いて、しっかりね！かしこ 千鶴子より

.....



1975年4月27日

お父さま&お母さまへ

毎日毎日、たよりが届くかと心待ちにしているのに全然無いので、そちらの方が私からのたよりを待っているのやわ、とハタと気付いた次第です。ご免なさい！

実は、先日ポーリンから電話があって、まずは無事に帰ってきたとのこと。日本ではいろいろと錦鯉愛好者らとの親睦やら【愛鱗会】との交換行事やらと実に盛り沢山だったみたいね。その歓迎ぶりの猛烈さに圧倒されたとのこと、

興奮の冷めやらぬ気分をまだまだ引きずっていて、どうにも家事などする気になれないなんて笑って言っていましたよ。ところで、なにやら新潟に行く途中で地震の余波で列車が立ち往生になったんですってね。その興奮も未だあったみたいですが…。異国で彼ら全員がとまかく同じ稀有な体験をして、それに日本人の多くの人々からいろんな意味で助けてもらった様子ですし、後から考えれば、あれも面白いことだったなんて思うに違いありません。遠距離電話ではあまり長話もできず、詳しく状況を尋ねることも無理でしたけれど…。とまかく肝心なこと、お父さまはまったく健康体で元気でいたこと、お母さまは私のことを案じて、話のたびにボロボロ泣いたことなどを報告いただきました。ポーリンはとっても感激していましたよ。本当にお母さまは‘sweet(愛らしい)’ですってさ！

それから、ポーリンが言うのよ。やはり舞鶴での出来事は忘れられない、でっかい喜び、最高だったのですって！ 歓迎式典を取り仕切ったDr.川口先生の采配ぶりにも大層感激していましたよ。それから、私の家を訪れた際、お母さまの手作りの料理が、あまりにもお腹いっぱい食べられず、がっかりさせたかも知れないけど…。お母さまには、どうぞよろしく言っておいてくれとの言伝がありました。やっぱりだね。お母さまらしく、精一杯頑張ってくださったのね。ほんとに良かったこと！ マコさんも通訳を買って出してくれたとか、大活躍だったみたいじゃないの！ すご～い！

遥か日本からの此地に到着した鯉さんたちもそれぞれ無事が確認されている模様ですし、これから御礼の手紙を書くのが一苦労だって、ポーリンが笑っていました。まったく今回のジャパン・ツアーで訪れた各地で出会った人たち全員にたよりするのは大変なことでしょう。日本側

のホスピタリティ(おもてなしの心遣い)にはひじょうに深い感銘を覚えた模様ですし。まずまず成功だったと言えるでしょうね。いろんな点、苦勞して旅行プランを練ってきたローランドがこれでどうにか報われたのは勿論のこと、彼と昵懇の間柄になっている舞鶴の Dr.川口先生のご尽力も計り知れないものがありますけれども、【愛鱗会】の錚々たる面々のご賛同を得ての全国ネットワークの威力ももの凄いでしたわね。皆々さま方、無事にひとまず成功裡に終えられてさぞかしホッとされましたでしょう。いずれどんな様子だったのか、お父さまやらお母さまからもどうぞ知らせて寄こしてください。お疲れじゃないか、大丈夫にしているかしらなどと案じたりしておりますので…。

ローランドが、いずれあちらで撮った写真の現像が出来上がり次第、私にも送ってくれるとのこと。すごく楽しみです！ では又ね。

千鶴子より



1975年5月15日

お父さま&お母さまへ

先日国際電話を掛けてお二人のお声を聴けたところですから、ここしばらく安心しております。ポーリンからお母さまの様子を伺って、そういえばこの前送られてきた録音テープの中でお母さまが<チズコさん、帰りを待つ家族のことを忘れないでください>と、涙声でおっしゃったのを思い出したわけ。うちのお母さまはとことん『岸壁の母』なんだからって、内心おかしいやら有難いやら…。それでちょっと安心させたくて国際電話を掛けましたわけで。こちらからは夜11時少し前に掛けたの。日本では朝食の折に掛かったみたいね。一番いい頃合でしたわね。お二人ともいらしてくれて良かった！ それでお二人

とも元気元気なのには拍子抜けしちゃいました。ともかく一言二言でも、お互いに声が聴こえるってほんと大きな慰めです。

それで今朝、ようやく待ちに待った写真入りのおたよりが届きまして、例の英国の‘鯉キチ’たちのご一行の訪日の折の、特に舞鶴での歓迎式典の大騒ぎの様子が分かりまして、改めてその豪勢なのには心底たまげました。なんと京都の一流ホテルのシェフが出張してきたんですって！料亭『松月』の大広間に並べられたテーブルの上のご馳走の品々には唖然としながら、私はもう一生懸命、写真を睨んでおります。食べたいなあって思いで・・・！それから記念撮影の写真を見れば、日本のご婦人方は和装でずらっと居並び、奥様方は訪問着、お嬢様方は振袖とはなんと晴れがましくて、もう凄い！の一語に尽きます。きっと英国の皆さん方、本当に圧倒されたいと思うわ。でも彼らだって、さすがに素敵な装いでしたし、皆さんどなたもお顔が心もち上気してらしたわね。

でも驚いた！式典で、なんとお父さまは、【英国錦鯉協会 BKKS】から感謝状を贈呈されているのね。そんな話聞いてなかったもの。なんともまあ、粹なはからいをして下さったこと！感激というか面映いというか・・・それに、『京都新聞』にも載ったとやら、その記事の切り抜きに私のことが書かれているけど、それを読みながらも自分のこととは到底思えないわねえ。なんとも複雑な心境・・・でも写真で、あれだけたくさんの日本人の顔が眺められて、私は嬉しかったです。〔これって、可笑しい感想やね？！〕なかなか‘舞鶴人’の顔もいいもので、ご立派じゃありませんかと痛く感心した次第です！なんだかとても誇らしい気分でしたわけ！

それから、今回いただいたお母さまからのたよりで分かったけど、やはり我が家の池は、英国の‘鯉キチ’の皆さん方には注目の的だったようですね。石庭づくりの景色は勿論だけど、なによりもお父さまが考案した池の水の濾過方法には誰しもがなるほどと感心されたご様子じゃありませんか。濾過槽の一番下にカキの貝殻を網袋に入れて並べるやりかたというのがね、やはりユニークだよね。近くの貝工場の庭には貝殻が山積みになってあるわけで、取替え時にはそれを取りに行くだけで経費はゼロというのがいいじゃない。その濾過槽を通して循環された水がパイプの口から勢いよくじゃんじゃん流れ出て水面を叩いては飛沫を撒き散らしてる。鯉たちはその周りがとても好きなのよね。さらには、長い柄の先にナイロン系の布袋をつけ、それで万遍なく池の水を掬いとり、ゴミなどを濾し取るのがお父さまの日々の日課で、おそらく皆さんの前でそれを実演なさったことでしょう。目に浮かぶようです。英国の錦鯉愛好家たちはそれぞれ日頃ご自宅の池の水の浄化には苦心惨憺しておいでだから、なにかしらのヒントになったに違いないです。そんなこんなで我が家の庭で誰もがみるもの・聞くものに忙しくて、とても飲んだり食べたりとまではのんびりしていられなかったのがよく分かるわ。でも、良かったわね。遠来のお客さまたちの熱意に充分お応えできるだけのものを提供できたということですしね。お写真を見ても、お父さまが元気そうで、ほんと安心しました。ほんの少し顔の鼻柱のところに傷跡が残っているのですか？お母さまも随分若々しく見えるじゃありませんか？！ほんと全然お変わりないのね！お二人とも此の度はほんとにお疲れさまでした。舞鶴の皆さん様にもどうぞ宜しくお伝え下さいますように。では、いづれ又。千鶴子より

.....



1975年6月8日

お父さま&お母さまへ

この頃、急激にあれやこれやと多忙を極め、随分とご無沙汰を続けておりましてご免なさい。£120ポンドの送金は確かに受け取りました。いつも誠に有難うございます！お蔭さまで、私はこの頃、本当に暮らしが安定していて活気づいているのです。【タヴィ】で受講するセミナーの数も増えましたし、さらには折々に気が向けばコンサートとか映画とかも出掛けたりしますし…。学ぶものがありそうと思えるものには積極的に参加しています。お蔭さまで、なんだかとても私は力強く、堂々と勉強しているって言えそうです。どうぞご安心ください。

近頃ふと思いついて、英国人により身近に親しみ、問題意識などを分かち合うためにアダルト・カレッジ〔市民講座〕に加入したのです。この前の「イングリッシュ・カントリー・ダンス」のレッスンなんて、とっても愉快だったの。若いのは偶然私だけで、それに新顔だもので皆さんに大いに珍しがられてね。一緒に同じことをする喜びって、国籍とか肌の色とかもう関係なくなるのね。愉快愉快ってわけで…。殊にいかにも経験の多い、ご年輩の方たちとの交わりは、私にとってもとてもいいことと思ってます。すごく健康的な雰囲気なのです。

最近、その市民講座のなかに保育セミナーがあって私も参加してるわけなの。とっても有意義な体験をしていると思う。《プレイグループ》と云って、3歳～5歳児の子どもを持つお母さんたち方の自主運営の保育というのがあるんだけど、おそらく日本でいう‘保育所運動’みたいなね。そうしたお母さん方のリーダー向けの講座

であるわけ。いろんな母親の生の経験談が聞けて、すごく面白いです。なんと云っても、子どもを育てた経験は大きいものですね。私などは事を難しく考える性質ですけど、母親ってのは、もっとあつけらかんと暢気で朗らかでってのが案外いいのじゃないかと思ってみたい…。母親たちとのお喋り（体験談の聞き取り）ってのがひじょうに刺激的で面白いのです。

そんなこんなのご縁で、【タヴィ】の近くのSt. Johns Woodという、とても落ち着いたミドルクラスの住宅街にある界限で教会のホールを借りてやっている《プレイグループ》との繋がりができ、週1回朝方通って、子どもたちと一緒に遊びながら遊戯観察を試み始めているのです。これは心理臨床で問題を抱える、いわゆるセラピイの子どもを相手するのとはちょっと違うわけで、殊更に介入することなしに、ごく普通に子どもらの遊戯に寄り添っているだけというのが実に勉強になります。勿論、こうした就学前の幼児の遊戯観察は【タヴィ】でも奨励されているわけだけど、なかなかその機会を得ることはどなたにとっても時間的に難しいと言えそうです。要するに優先順位の問題だとしても、私の場合は【タヴィ】の同輩と比べてみても、減法恵まれていると改めて思いうわけです。

私も此地で3年の滞在を終えようとして、やっとこの頃、何がどう必要で、学ばなきゃいかんのか解かってきたところで、いろんな点で面白くなってきたところです。そうした意味で、落ち着いてきたとも云えますし。なんと云っても、此地に根ざした暮らしが格好付くのはなかなか年月が掛かるものでありますわけで…。お蔭さまで私もようやくここでの生活がそれほど辛くも淋しくも感じないようになってきております。

この頃、日本からお越しのお若い方たちとも会う機会があるのですが。いろんな意味で、皆さんどなたも動揺なり葛藤を経験しておいでの様子で、外国生活ってのはなんとしんどいものです。私はやっぱりよく耐えて来たと思います。この頃はこちらの新聞もよく読むようになったりしてるのよ。いろんな機会を積極的にとらえて、討論に参加するとか。私も大きく成長しようとしています。まだまだ前途多難ですが、私はこの頃、あんまり不安を覚えずにいます。まあどうぞ安心していてください。

さて、おたよりの中で、お母さまが最近体の調子がすぐれないと伺いましたが、更年期を迎えておいでの時期というのは精神的にも肉体的にもいろいろと変調を来す由ですので、頑張っって無理をすることなく、体をせいぜい労わってくださいように・・・病院の仕事の方は、支障なく、その後いっていますか？なんと云っても、経験の積み重ねというものは大きな強みです。私などは若くて解かんないことがいっぱいある時期にまだあるから、【タヴィ】のコースの教官で40やら50も過ぎた方々を見ると、私もあれぐらいの年齢になれば、あんなふうに自分の仕事に自信をもってパツパツと事をみごとに裁いたりできるものかしら、と羨ましくも溜め息が出ます。

振り返って思うに、おそらくはペピの乳児観察で得たところの収穫が大きいと思われますけど。いろんなこと学んだお蔭で、随分と自分に性急さがなくなってきたことを感じてます。不思議なんだけど、やはり物事が見えてくるということは心が感じられてくるということだわね。それで盲滅法に騒ぎ立てることもなく、だから消耗しなくなってるのかも知れない。ペピは今1歳4ヶ月で、彼のお母さんのミセス・プロメシアは最近、小学校

の校長先生に昇格しましたよ。穏やかな日常のなかでじっくり親子の交わりが熟してゆくのを眺めているってわけ。私の場合はまだまだいろんなことが不確実だけど、でもまあ、人生に退屈してるどころか、私はますます意気軒昂で、いうなれば遅咲きというか、晩熟というか、実に成長には時間の掛かるものだとか観念しているところです。それに最近、日本の古代史などに強烈に興味を覚えたり、興味の領域が広がってきてますし、いいことだと思うの。遠くにわざわざ出掛けてゆかなくとも、身近にいっぱい学ぶものがあることに気付けばそれこそが幸いと思う。でも私などは異国に居ればこそ、見れなかったことが見れたともいえるし、だから現在の自分の運命に感謝しているわけです。と云っても、やはり日本は恋しいです。家の鯉さんたちは元気で大きくなってますか？庭のツツジなども華やかに咲き誇っていることでしょう。お父さまの毎朝・毎夕池の水の清掃にハッスルしてる様子が眼に浮かびます。くれぐれも夫婦和合でゆかれることがまず何よりですので・・・。

それから、私のセント・ジョージ病院での仕事はその後ますます順調で、ひじょうに収穫の大きなものになりつつあって喜んでますので、どうぞご安心を。いずれ又。かしこ

千鶴子より



1975年7月23日

お父さま&お母さまへ

久し振りにおたよりを書くような思いですが、かなりご無沙汰したようですね。お蔭さまで私の方は元気元気でおりますし、実にこの頃は滅法やたらにいろんなことが続出して、もう2、3日前に何があつて、どうだったかなんて、皆目覚えていないような始末です。

まずはビッグ・ニュースの一つ目。最近、画期的なことが身边に起きました。実は目下、ロンドンで【国際精神分析学会】が開催されているのですが、日本からも錚々たる顔触れが6人ほど参加されてお見えで。私、皆さん方にお逢いしたのです。それというのも、つい最近ロンドンで、「モーズレイ病院」に1年ほどの期限で研修留学に見えた方を、これも或る別の人から紹介されて、その久保紘章先生という、四国学院大学の心理学の教授でいらっしゃる方ですが、Dr.小此木啓吾先生とおっしゃる、慶応大の精神科医で、精神分析では現在の日本では権威なのだそうですが、その先生をご存知でいらして、日本を出発される何日ヶ前に私のことをお話してくださったとかで、先方も私にぜひ会いたいというわけで。話しはとんとんと・・・だったの。それで2、3日前私の方から会場に出向いてお逢いしたわけです。馬場禮子先生という慶応の医局の方も一緒に、3人でそりゃ楽しくお話したのです。そして、今日は私のフラットに6人全員の皆さん方を昼食にお招きして、短い間でしたが、華やかにかつ和やかに楽しんだというわけなのです。児童精神医学の権威である Dr.牧田清志先生もお見えでした。それで、ついこの間迄は、私が【タヴィストック】に居るということをもなたも知らなかったもので、それも2年も既に在学しているということでびっくりなされた様子で、とても熱心に私の状況をお尋ねになられました。

それで、皆さん方の感触では、「クライン派」というのが、精神分析の世界的な趨勢において主流を占めてゆくであろうということでは見解が一致されておいでで、私の将来にひじょうなる期待を掛けておいでなのが感じられました。クライン派の著作本の翻訳は日本ではこれ迄出版されていないんだそうで。今後は意欲的にその方面が手掛けられるとの見通しらしいです。それ

で東海大学・医学部の Dr.岩崎徹也先生という方が、その入門書のような本を翻訳されておいでの途中だそうですが。今日の昼食会にもみえてらっしゃったのです。将来私が日本へ帰国した折に多少とも関係するであろう、精神分析業界を担う諸々の方々と異国でこうして親しくお逢いする機会がありましたのは本当に幸運なことと言えます。でも、正直なところ、私にはまだまだ「クライン派」としての覚悟があるわけでもなし、それだって今後の展開次第ではどうなるとも知れないわけだから・・・。いつかは帰国するにしても、帰国後の将来の展望などまるで念頭にないわけで、親にしてみれば、それも随分と迂闊に聞えるでしょうが。‘今ここ’に私は没頭してるわけで、それでもう精一杯なのです。ちょっと言い訳めいてるけどね・・・。

それからね、小此木先生が、今日のお礼になって、おみやげに【北斎】の素晴らしい浮世絵の何枚かのシリーズもののセットになっているのをくださったのです。高価なものでしょうに・・・。それがあまり素晴らしいので、「日本恋し病」は卒業したとはいえ、ふとどうも帰国が早くなりそうかなって、一瞬思ったほどです。久々に‘日本の美’には圧倒される思いでした。ほんとに嬉しいお心遣いをいただきました。ともかく小此木啓吾先生は大層愉快な方でしたよ。今後私のことを応援して下さるとのことです・・・。

それからもう一つ、ビッグ・ニュースなの。なんと本出祐之先生がこのロンドンに居るってことをまたまた久保先生経由で偶然にも知ったのです。イギリスの福祉行政の視察にお越しでいらっしゃるそうなのです。私がかつて【愛知県立女子大学・児童福祉学科】に在籍していた当時もっとも影響を強く受けた我が師でもあります。

【愛知県女大学】が【愛知県立大学】へと移行した折、社会福祉学科創設に当たり、【大阪市立大学】からわざわざ招聘されて教授としてお越したのですが、そもそも本出先生は早稲田大学の英文科の出でいらして語学に堪能ですし、実に鋭利な理論家肌の方で、その存在に魅了されたことで、いつしか私は精神分析へと導かれていったという次第なのです。【京都大学・教育学部・大学院】の修士課程へと進んで以降、ずうっとご無沙汰で、まるで音信不通になっていたの。私からロンドン留学しているとも【タヴィストック】に在籍してるとも、なんらご報告せずにおりましたわけだから、今にしてここロンドンでお逢いできるなんて、まさに奇遇！まったく心底驚喜したわけです。本出先生は、次の土曜日、私のフラットにお訪ねくださるのよ。お茶にお招きしてご一緒する約束になっています。ほんとに妙というか、不思議な感慨を覚えること頻りなのです。

やっと今ここに至って、こういう運命なんだわね。何かしらようやく‘開いてきた’って思うのです。今までの苦労が無駄じゃなかった。ここ迄ご援助いただいたお父さま、お母さまに改めて有難う！を申します。いずれお二人に安心してもらえるような帰り途を考えてゆくことでしょう。まだまだ先だとしても・・・。

さて、いよいよマコがやって来てくれるのを待っているところです。私のホームシックを癒すために彼女に無理にお願いしたようにも思うけど。やっぱり嬉しいです。あちこちこちらのユースホテルを利用しての旅行プランを練っているわけなの。どんな珍道中の旅になるやら・・・胸ワクワクです。では又、いずれおたより書きますね。

かしこ 千鶴子より

.....



1975年8月6日

お父さま&お母さまへ

暑中お見舞い申し上げます。

日本の気候は猛暑とか、今や最悪なのでしょう。か？お母さまは特に夏はバテ気味になりやすいので、私は案じております。しかしながら、あの夕暮れの憩いのひととき、冷たい素麺やら、スキップとした夕食のご馳走を食べながら、鯉たちが庭の池でピジョンピジャンと跳ねるのを眺めるなど、実にいいものですねえ。そんなこんなを考えると、実に日本の夏も捨てがたいと思ってしまいます。

ここ1週間ほど、ロンドンもかなりきつい陽の光で、人々は躍起になって日光浴をしています。そうじゃないと、いつ又お日さまに出会えるか解らないのですから・・・。私はやっぱり日陰で涼しい風に当たっているのが好きです。でも気候がいいせいか、なんだかすごく眠たいです。

この頃では、マコさんがもうしばらくしてやって来ると思うと、私の気持ちは浮いたり沈んだりです。ユース・ホテルを使つての渡り鳥旅行はさぞ素晴らしいことでしょうし、それからいろいろと研究の上での討議も有意義だろうと思う半面、彼女が去った後の喪失感ってのは耐えられないだろうなあ、‘日本恋し病’がぶり返しはしないかしらなどと、思いがあっちこち錯綜して複雑です

私の方、仕事と勉強、ますます大変な時期を迎えております。まったくもって我が儘一筋の人生ではあるわけだけど、まったくえらい道を選んだものと、我ながら考え込むことがあります。ところで、つい最近ひょんなことで、【タヴィストック】経由で Mrs.ハリスからのご紹介なんだけど、私、どうやら日本人女兒をセント・ジョージ

病院でサイコセラピイのケースに持てそうなのよ。とても喜んでます。此地で私が日本人であることをむしろメリット[利点]にできるということだわね。私がいつか大いにお役に立てる人間になれるとしたら、今の困難を是が非でも乗り越えてゆかねばならないと思ったりしています。

いずれ又。かしこ 千鶴子より



1975年8月11日

お父さま&お母さまへ

二人は無事です。マコは初めての外国旅行にしては結構気楽な気分でくつろいでいます。バード・ウオッチングに凝っていると聴いてたけど、マコは私と違って、野山歩きには慣れてる



から、愉し
み方を心得
ているとい
うか、時折
写生などを
折々に

したりやら…。私も英国をこれ程旅したことが無かったのですごく喜んでます。

毎日毎日次々とユースホステルを替えて、渡り鳥のようです。全部でなんと宿泊地が13箇所にもなるのよ。

スコットランドはエディンバラからもっと北のアバディーンへと、それから湖水地方へと移り、さらにウェールズ地方から南下して、温泉で有名なバースを経て海岸地方のコーンウォールへと、英国全土にかけて旅程を計画したわけなの。



とにかく八月はどこもすごい混みようなので、宿泊が確保できただけでも一安心だったわけ。

貧乏旅行とは云え、ホステルで若い人々やら多様な人種との出会い



もあり、マコにとっていいことだったと思います。食事が今ひとつかな。ちゃんと食べていますが、どうしても肉類が多いので、マコはちょっと飽きたと言ってます。旅の始める前のしばらく、私のフラット



で泊まってもらったのよ。ジェーンが折り畳みのベッド一式を持

っていて、応接間をどうぞ使っていいのよと言ってくださったもので甘えたわけ。お蔭で、本出先生をもお招きして、皆でちょっとした晚餐も出来ましたし。それで賑やかに比較文化論やらで大いに話が盛り上がったというわけ。異国なればこそ相まみえたということが云えましょう！旅行中は、あれやこれや毎日が結構盛りだくさんで興奮の連続です。ここずうっといいお天気に恵まれて、私はもう真っ黒

に日焼けちゃって凄いよ。あと残り僅かですが、成功的な旅



行だったと云えます。大層いい思い出になりますよ。お互い話したいことが一杯あり過ぎるほどあるものだから、自然を大いに満喫しながらも、二人で実によく喋ってます。どうぞご安心を！

千鶴子より[ウェールズ地方にて]



1975年8月20日

お父さま&お母さまへ

マコとの旅行中は、こちらもずうっと日本の夏と変わらぬほどのかんかん照りで、私などもう真っ黒黒で凄まじい日焼け方でしたわけ。‘健康美’ということだけど…。マコをヒースロー空港に見送って、ビクトリアの駅に着いた頃に雨がザーと降り始め、その後2、3日は曇りのお天気で肌寒いぐらいなのです。今尚もショボショボとあまり浮かないお天気が続いてます。ともかく恵まれた天候のお蔭で、存分に夏季休暇を楽しみ、今回の旅程は振り返っても本当に充実していたと思う。

マコは来る折の飛行機で食べ物が当たったのか、始めの2、3日お腹の痛みが引かず、それでもよく頑張ったと言えます。私は途中バテル寸前迄いったことも1、2度ありましたが、引率役の私がそんなのでは困るわけで、気分を引き締めてと、ずうっとやや緊張ぎみ…。無事総ての旅程を終えたときは、マコが行っちゃうので悲しいとか、そんな感傷に浸る気分じゃなくて、ともかくホッと安堵したのです。

マコも充分満足した様子で、ちゃんと前もって送金を充分にしてくれていたのに、最後気前良くガイド料というかチップというか、£10ポンドも置いてゆきはったの。いずれおみやげ話は彼女の方からゆっくり聞いてください。そりゃ、いろんなこと、けったいなこともあったのですから。それでも、お互いに喧嘩もせず、カンシャク玉を一度も破裂させることもなく、仲良く旅出来たのですから、二人ともやはり成長したのやなあと後でしみじみ嬉しく感じた次第です。色んなことを話して、彼女からとても学ぶものがありましたし。私も早速、新たに気を引き締めて勉強に取り掛かっている具合です。マコからの話からも改めて、それ

ぞれ私たち銘々の個々の歴史が少しずつ恰好が付いてきてるのを再確認したのです。業績なり交友なりが多彩に拮がりつつあるのは嬉しい限りです。

それから、家族へのおみやげは、こちらの眼が肥えているせいか、あれもあかん、こんなのじゃつまらないってわけで、結局大したものを買って求められず、ちょっと悔いが残りました。まあこうなると英国は誇るべきものなんて無いんだなあと思われ。チョコレートは賞味してくれましたか？「アフター・エイト」ってやつ、ミントの味がなかなか日本ではないでしょ。私の一番好きなのです。カット・グラスのワイングラスのセットは **Baker Street** のお店の人が倉庫から出してくれたばかりのピカピカのやつでしたから、気に入ってくれたかなと思います。洋間の飾り棚に並べるといいかしら。一つ一つ傷が無いかな、念を入れて選んだのですよ。写真は、私の方、最初のフィルム1本の現像が出来ましたので、彼女の方に早速送りました。そのうち他の2本も現像出来たら、送ります。いろんなおみやげ話に沸くことでしよう。

マコから今回、インフレーションのこととか、日本の凄まじい経済状況を聞くにつれ、私も将来どうなるんやろと不安を覚えたり、就職運動、下宿探しなんて、もううんざりやなあと思ったり…。帰国後のこと、改めて現実味を帯び始めたというか。尚のこと、いっそう慎重になったような気がします。いずれ将来は日本へ帰るとしても、トレーニングの期間はあと2年3年とか、なかなかはっきりと言えない状況です。現在の仕事(病院)も、ひじょうに収穫をあげていることは確かです。日本へ今帰っても、これ以上のいい経験を持てるとは言い難いわけです。現在のところ私の身に限って云えば、ここに居るのが当分どうや

らいいみたいです。無論外国人の中で一人前に仕事が出来、それなりに評価されるということは、並大抵のことじゃなく…。でも中途半端で帰るよりも、トレーニングをいずれ日本で指導者格として迎えらるるに相応しいだけの力量を身に付けて帰国したほうが良いように思えるのです。

幸いにも小此木啓吾先生は私に期待してくれておいでのようですし。将来日本で就職するとか、腰を落ち付ける際にご相談に乗ってもらえるかどうか、私も内心ちょっと当てにする気分になっております。それもまだまだ先の話。あと2、3年間の此地での私の成長がどんなものであるかに依るでしょうし。ほんとのところ、帰国後のことって、あまり現実味が乏しいんだけど。でも、いつぞや小此木先生に、＜私は日本との繋がりがありませんので…＞と、ちょっと帰国後の不安をなにげなく吐露したわけ。そしたら彼が、＜私と繋がっていることは、もうそれで凄いことなのです＞とかおっしゃって…。なにやら慰めてもらったような。それで将来が保証されたわけでもないのだけだね。

それから、前回お会いした折に小此木先生からわざわざおみやげとして頂戴した、【北斎】の浮世絵のセットのことなんだけど。最近オーストラリアに行ってしまった Mrs.シーボン(私の【タヴィ】の元指導教官で、とっても親切にもらったの)に差し上げることにして、お送りしたところです。ご結婚を機にあちらに永住されるらしくって、いずれ家を新しく購入するっておっしゃってましたから、きっと壁やらの装飾に喜ばれることでしょう。小此木先生もぜひ有効に使ってくれば嬉しいと言っておいででしたから…。

さらになんと小此木啓吾先生は律儀というか、気前がいいというか、ご自分の著わしたご

著書(「フロイトーその自我の軌跡」 NHKブックス)を航空便でつい先日送ってくださったのですよ。まだ先のことにしろ、帰り支度というか、確かに日本の「精神分析」事情に疎いというのではよろしくないということでしょうし。いろいろとご配慮いただくことは実に有り難いと思わねばなりませんでしょうね。

それからもう一人、例の国際学会に出席して、小此木先生たちといらした岩崎徹也先生とおっしゃる Dr.[精神科医].が、いつぞやロンドンで私の用意した昼食のお礼に、彼の論文をわざわざお届けくださいました。皆さんに噂されて注目されるのはいいけど、実力が伴わないのでは困るわけで、私も真剣に頑張る覚悟であります。マコは、ハッターも必要だと言っていましたけど…。それも、どちらかという気の弱い私を氣遣ってのことだけど、まあ所詮ハッターは私には無理でしょうしね。

旅行中、バテないようにと思って、食べるのにせっせと努めたお蔭で、太っちゃいました。お父さまは、朝夕涼しい頃にはホースでお水を池に入れてあげたりして、水飛沫を浴びて泳ぎ回る鯉たちを相手にくつろいでおられますか？お母さまも体力が回復してきたとのこと、何よりです。今月の送金を頂戴しましたので。本当に有難う！ところで、テープの録音で皆の声を聞きました。サッチャンとこからも全員揃って、まあ大層賑やかなこと！とっても愉快愉快でしたよ。

では、さよなら 千鶴子より



1975年9月29日

お父さま&お母さまへ

取り敢えず‘速報’です。まだちょっと先ですけど、転居することになりました。今こちらのフ

ラットで一応家主になっているジェーンが郊外（オックスフォード）へ転職することになったため、ここの建物の家主との契約で、このフラットを空きにしないといけないという事態なのです。急な展開ではありますが、私としてはそろそろ動かねばならないかなと薄々考えていたところで、さほど動揺することなく、私らしく、‘善は急げ’で、さっさと対処したというわけ。それで、ひじょうにラッキーなことに、大して苦勞もせずに【タヴィストック・センター】のすぐ近くに手頃な下宿先を見つけたという次第です。

ロンドンの住宅難は深刻で、これ迄1年以上も週7ポンドで、これだけ余裕のあるところに住めたのは感謝しなくちゃいけないって、ジェーンとも話していたのですけれども。これって実に例外的なケースなのです。相場の半額以下なのですから。それでも、来学期以降【タヴィストック】での受講セミナーが増えるし、通うのが多少難儀になるなあと思っていましたもので、実はここ最近、【タヴィ】の近くで安い下宿家がないかと探してはいたのです。値段の高いのには恐れをなして全然手が出ませんでしたわけ。この際意を決して、【タヴィ】の掲示板に広告のあったのの一つ応募して、先方に承諾してもらえることになりました。週£13ポンドなのです。急の値上がりに驚かれるかも知れませんが、これでもひじょうに安いのを見つけて、成功したといえる部類なのです。大体一部屋（台所・トイレなどは共同）で£15～20ポンド（週）が相場なのですから…。私なんて、嬉しくて興奮しちゃったぐらいです。【タヴィ】へも、また教育分析を毎朝受けに通うのも、歩いて行ける距離にありますし、時間の節約でもあり、身体的消耗の度が少なくて済むでありますし。

新しい下宿先はいわゆるセミ・デタッチド・ハウスといって、イギリスではごくごく普通の家並

みの裏庭付き一軒家なわけ。その3階のトップを改造して、別棟というか、二人用のフラットにしたもので、玄関口は同じでも、まったく下階とは関係なく、台所・トイレ・風呂場があります。その界限はとても落ち着いた雰囲気住宅地で、銘々の家にもその玄関先の前庭に花々が植えられており、整然とした街並みです。今居る二人の女の子たちが別に移るところを目下探しているところで、10月26日迄には確実に出るとの約束がしてあるとかで。私の部屋は一間だけだけど、今のところより広いです。家具やら押し入れやら、本棚がちゃんと備えられてあって、本当に落ち着いて勉強できる態勢にあります。今のフラットでは、他の二人の電話やらラジオやら話し声やら、物音に悩まされることがありましたが。次のところは、頑丈に出来ている建物で、それらの煩わしさからも解放されるのが本当に嬉しいです。

家主の奥さんはミセス・ブルックとおっしゃるご婦人で、一応ジャーナリストという職業人のようで、言うなればインテリ（教育関係の責任のあるポストにある）人です。ご主人は目下外国暮らしで、二人の成人した子どもがいます。言葉遣いや物腰やら、やはりインテリに相応しい印象ですし。とても私を気に入ってくださってます。やはり又々いい出逢いに巡り合ったものと言えましょう。とにかく総てうまく行って安堵しているところです。今後の経済的な遣り繰りをよほどうまくやらないといけないとは覚悟していますけど。とにかく頑張れる精神的な余裕やら安心感などが保証されたわけだから、やってゆけると思ってます。どうぞご安心ください。ここを去る迄にはいずれ一度家の方に電話したいと考えてますので。取り敢えず、お知らせ致します。

では又。さようなら 千鶴子より

.....



1975年10月1日

お父さま&お母さまへ

お手紙有難う。日本での気候もかなりしのぎやすくなったとのこと、良かったですね。こちらはやはり秋の空というか、青い雲が美しかったり、夕焼けの澄み切った赤橙の広がりとか、やはり暮れてゆく秋の日を感じさせる時もありますけど、雨の多い、じとじとした典型的なロンドンの気候(それも年中殆ど変わらず)なのです。

お蔭さまで、私はとても安定した日々を送っております。たまたまかつての県女時代の恩師である本出祐之先生が、英国福祉行政の視察のためこちらにしばらく滞在なさっておいでで、ともかく折々に話の聞いてもらえる存在が身近にあることが大きな救いです。私は取り敢えずなんでも、日頃鬱積している、様々な学問上の疑問などを彼にいろいろ聞いてもらっております。とても有難い存在です。

その本出先生が、歯の治療やらで急遽一時帰国なさっておいででしたが、つい先日又こちらにお戻りで、久し振りに私のフラットにお食事にお招きしたわけです。今回は珍しく、ヨシエさんとおっしゃる、社会学をこちらで勉強したいという、お若い日本人女性をお連れしてきはりまして…。どうやら彼女は此地で幾つか掛け持ちのアルバイトしておいでで、「日本人学校」でも教えてらっしゃるんだそうで。そういうのもアリなんだなあって、そのタフな生きざまには感嘆したというわけ。やはり本出先生は大学人ということでもあるからなのか、人脈というか、交友の幅がえらく違うのよ。雑多と言えばそれまでだけど、この異国でもいろんな日本人に出逢ってるわけ。

それが妙な印象なんだけど。私とは年齢に大差はないのに、近頃ロンドンで見掛ける日本人の若者たちには、かつて此地で私たちオペアの女の子らが抱いた屈託も悲壮感も殆ど見られないわけ。やはり日本の経済発展が見えないところで後押ししてるんだわと思えてならない。とにかくにも、こちらで本出先生の許に集まってくる人々との交わりに私も興味を覚えます。皆それぞれに此地での‘探しもの’は違っても、異国で互いにアイディアを披露し、吟味する仲間を持つことの意義を強く思うからなのです。【タヴィストック】だけの生活で、‘視野狭窄’にならないためにも…。

本出先生という方は、誰しもが一目置ところの‘長老格’というか、達観したお人柄でおいでなのです。＜精神分析を2年3年受けたなんてことは大して信用できるもんじゃない(その効果或いは成果のことです)・・・まあ、5、6年は掛かるもんやろなあ・・・＞とか、淡々と言わはるから、困ります。実際にその苦労を舐めている本人の私としては、それじゃとてもかなわんと言いたところやけど。あの方は嘘を言わない人で、実際その通りなのですから、ガツカリもアアの溜息もしなくなったりするわけで…。

ちょっと噂で聞くと、或る若い日本人の研修医が【モーズレイ病院】でサイコセラピイの症例を5つ持っていて、その一つずつを別々の流派のスーパーヴァイザーから指導受けてるって。そんなのアリか？！って呆れたけど。いろんなものを取り込むことに忙しいというか、いかにも明治維新以降の要人に典型的な‘和魂洋才’じゃないけど、「下手に‘毛唐’にはコミットしない」ということだろうと思われるわけ。相も変わらず‘つまみ食い’程度の小器用と小賢しさが幅を

利かすということではないわね。いわゆる‘輸入文化’でも、【クライン派精神分析】などは‘仰ぎ見る牙城’だから、その周りをうろうろしてるぐらいが無難だろうというわけで・・・。

でも、本出先生ともよくお話しするんだけど。彼自身もご自分がどこか‘不徹底’なのを秘かに嘆いておいでなのか、どちらかという私には徹底させようと後押しなさってる気配を感じる。万事に付き‘中庸’といったスタンスでおいでなんだけど、‘半端’なものにはすべからず黙ったままウツって鼻でお笑いなの。それが結構怖いよ。「見えない先に見えて来るものがある」という信念が、やはりご生家が禅寺で、その出自からなんでしょう、おありみたい。さらには、人それぞれに、超えられない限界というか、つまり「ここ止まり」というものがあることを冷徹に見据えておいでなのです。だから怖いわけ。そうは言っても、こちらで徹底的にコミットすればするほど、いずれ私なんか極めて面倒くさい立場に立たされる羽目になるのは分かる。日本に戻れば、おそらく私は不利でしょう。珍奇なものとして一時はチャホヤされるかもしれないけど。人々の中に深く根付くところまでは行かないのではないかと危惧がある。それも今後の時代の趨勢如何ともいえるけれども、精神分析の行く末にしても、とても樂觀はできないと思ってるわけなのね。

唯、私の場合、いずれ日本人を対象とした、日本語による、心理治療・精神分析といった‘認識(ロゴス)’を是が非でも発展させたいと念願しているわけだから。時期が来れば、万難を排しても、帰国しますので、そう信じてくださるように。本出先生から豊栖のお菓子(オカキ)をおみやげに頂戴しました。

ではいずれ又。 千鶴子より



1975年11月10日

お父さま&お母さまへ

こちら Fairhazel Gardens によりやく引越しを済ませたところです。家主の Mrs.ブルックがお母さまからの手紙もちゃんと預かってくださっていて、久し振りの手紙だから、とても嬉しかったです。送金も確実に届いていますのでご安心ください。有難うございました！

ところで引越しは、えらい番狂わせでしたの。頼んでいた人の車が故障して、予定日には間に合わないとのことやら。もう一人当てにできると思っていた人は休暇中で不在とやらで。てんやわんやで結局は、ごく最近本出先生を通して知り合った若い女性(ヨシエさん)に頼み込んで、同じフラットにいる日本人男性が小型の荷物運搬車を持っているということなもので〔花屋さんですって！〕、快く引越しの手伝いを引き受けてくださり、お二人に来てもらって、もうえらくお世話になったのです。どうにか引越しを済ませて、もうホッと安堵したところです。

この階は2人用のフラットで、もう一人は未だ決まっていないみたいで、現在のところ私一人です。なにもかも整えることしなくちゃいけないの。台所の洗剤とか布巾とかこまごましたものが無いわけ。でも、お皿とか台所用具などは一応付いているのですが。これからひと息付いたら、あれこれと片付けものして動きやすいように配置するやら、必要なものを買い整えてゆかねばなりません。何となしにまだ身辺が落ち着きません。

窓側は通りに面しているのですが、閑静な住宅街なので、車の騒音も滅多にないです。応接間はありませんが、私の個室は以前のよりも大きさは2倍ぐらいあって、明るくてゆったりしています。お母さまが来たら、もう一つベッドを入れてもらって、ゆっくりしてもらえることは確実に、そ

れだけでも喜んでます。毎朝、教育分析に歩いて通えますし、【タヴィストック・センター】も徒歩10分弱の距離にありますし。往復のバス代が節約できるわけだから喜んでおります。今すごい値上がりなものですから・・・それから、この下宿代は週£13ポンド50ペニーなのですが、その価格からすれば、最高の状況にあると思います。それに、なんと毎週の卵と牛乳代も含まれているんですって。‘朝食込み’なんて聞いてなかったのが、驚いたのですが。コーンフレークも支給してくださるわけ。ご丁寧で感激しています。すごラッキーよね！下階には、家主の Mrs.ブルックと、もう一人年輩の女性で、お父さまが戦前に日本に居たとやらで、とても日本最良のご婦人がおいでで、彼女らとはまったく別個の生活だけど、折々に挨拶やら、ちょっとした立ち話やら、気持ちよく交われるのは嬉しいことです。



それからサッチャン夫婦からいつぞや貰った錦鯉の絵の画いてある扇がバッチリ部屋に似合っていて、とにかく嬉しいので、その旨宜しくお礼を言っておいて下さい。以前のフラットでは部屋が小さくて、扇があまり麗々しくって、私はあまりそのもの自体好きじゃないと思っていたのですが。今ここでは素晴らしく冴えているの。私は今、まさに安堵して、ここの生活に慣れつつありますので、ご安心下さい。じゃあ又。かしこ

千鶴子より

◎追伸・新住所は下記のとおりです：

39 Fairhazel Gardens

London N.W.6 England

.....



1975年11月19日

お父さま&お母さまへ

今日、小包みが届きました。お誕生日のお祝いとのことでしたが、その日まで到底待ちきれず開けてしまいました。緑茶を淹れて、あらあら勿体無い、どなたかお客さまを招くまでは取っておかなきゃって言いながらも、つい手が出て困りました！今週末、例の引越しの際、運搬車を運転して助っ人に来てくれた名池さんという男性とヨシエさんを食事にお招きするつもりでいますので、遠路遥々届いた日本の品々をちよつとずつお出しして喜んでいただこうといろいろと並べては眺めているところ。すっごく感謝感謝です！

来週にはドクター・カーベルが映画にお誘いくださったので、私のところに立ち寄っていただき、日本食をご馳走するとの約束がしてあります。外食をすれば、相当な額の出費になりますし、私ほどのうまい手料理が何処でだって食べられるわけないので(これ本当！)、ちゃんとお礼とかお返しとかをしなきゃいけない時は、お食事に招くことにしてます。本出先生などは随分と喜んでくださってます。私にとっては先生のお話が‘ご馳走’なわけですから、お相子なのです。でも私の料理の腕前が何故か知らぬ間に上がったというのは変だよね。昔からお母さまの料理を手伝ったりしていたからかなと思ったけど。そう言えば、ふと最近妙なことに気づいたの。日本語を喋っている自分を自分の耳で聞きながら、いつしか自分の日本語が、もはや以前の学生っぽい感じではなくなっていて、年齢に相応しい、そこそこ大人っぽい語り口になっているわけ。＜えっ！これって、お母さまだわ！＞って、内心びっくりだったの。実に‘薫染’という言葉どおりだわね！

先週、ロンドン郊外に遠出して、久保絃章先生〔四国学院大學の教官でいらっしゃる〕の此地での仮住まいをお訪ねしたのです。家族ぐるみで短期留学というわけで。奥さまも、それに幼いお子たちが3人も居て、そりゃ賑やかなの。久し振りに家庭的な雰囲気を感じて嬉しかった！ お子たちのお相手しながら、甥の潤ちゃんに会っているような親しみというか、懐かしさやら、心温まるような触れ合いのひと時を満喫しました。私、随分と‘おばちゃん’になりましたよ！！

テーブルを囲んでのお喋りの際、私が家から録音テープが届く度に、それがいつも食卓の団欒時で、家族の皆が私の食べれないものばかり食べてるってわけで、ついホームシックになるって話したわけ。そしたら、それが向こうの（私の家族）狙いどころで、＜早く帰って来い、早く帰って来い！＞って言っているんだって、皆で大笑いだったのよ。本出先生以外は、殆ど気心の知れないお仲間同士なのに、とにかく賑やかで和気藹々でした。やっぱり同胞って、言葉に尽くせずいいものだわと思ったのよ！

ではいずれ又。 千鶴子より



1975年12月23日

お父さま&お母さまへ

お蔭さまで私は至極快適に暮らしております。ここしばらくとても寒い毎日で、今朝などは霜が降りて、昼過ぎても窓の外は雪景色のようで、霏がかって白々とした趣です。クリスマスは明日に控えて、ロンドンでは賑わっています。私もたくさんの人からクリスマス・カードを貰って、それをシュクラメンの鉢植えの周りにずらっと並べて、この季節柄、ほんと華やかで嬉しいものです。

Mrs.ブルックが、クリスマスの期間中に空いてる隣の部屋に友だちにでも来てもらったらどう

かとお親切におっしゃってくださったのよ。それを聞いて、仲良しのヒロミさんという女性だけど、飛び上がって喜んで、＜行く！行く！＞って言うわけ。それで、この機会にと思い、テレビをレンタル契約して手に入れました。メサイアとかキャロル・サービスとか連日こちらのTV番組は賑やかですし。もう十分にこちらでのクリスマス気分を堪能することでしょう。

明日は、ペピのお宅でのクリスマス・パーティに招かれています。そしてその後、シスターたちの修道院（コミュン）での真夜中のミサに列席することになっています。いつぞやお目に掛かったシスター・吉国・ローズリンが去られた後に、新しい別のシスターが日本からお越しだったの。杉本さんという方で、小学校の先生をしていらしたんだとか。とても経験豊富な、人間的にも温かい、実にいい方で、時折一緒にお食事したりで、交流があったの。ヒロミさんもお供します。彼女、赤いお着物を召してゆきます。私は黒のパーティドレスです。それで、皆さんの前で余興で（ミサの前だけど）『日本の歌』をご披露することになっているのです。先方から特別にご所望をいただいたわけ。お年を召したシスターたちの‘目の保養’と言っちゃおかしいけど・・・。とっても気持ちの綺麗な人たちばかりだから、どんなに喜ばれるか知れません！それで当日はたぶんコミュンで一泊すると思われます。その後帰宅したら、クリスマスの特別料理を作るの。おそらく奮発してオーブンでローストチキンを焼く予定よ！26日は、ドクター・カーベルと一緒に劇場へ、パレエ《くるみ割り人形》を観劇しに出掛けます。この時期恒例の催し物なの。前から観にゆきたいなと思ってたものだから、もう嬉しくって・・・！！

では、お元気で、どうぞいいお正月をお迎えくださいますように。 千鶴子より